

飼料作物の病害（II）

デントコーンの主なる病害と防除

北海道農業試験場 戸田 節郎



煤紋病

2 褐斑病 (*Kabatiella zeae narita* et. Y. Hiratsuka)

7月頃から発生し主として葉片に発病するが、葉鞘、苞葉、葉茎をも侵す。病斑の周辺が淡黄色、油浸状の環となる。病斑は円形、楕円形、紡錘形、大きさは1~3mmであり、その後互いに融合して不規則な形状となることがある。

伝染経路は、分生胞子、菌糸の型であり、風乾状態に保たれた被害葉について越冬し7月下旬まで生存し得るので、これが第1次発生源となる。新生病斑上に生成された分生胞子は風雨によって飛散し、特に霖雨状態がつづくと発生しやすい。

防除法：一イ）有機水銀剤による種子消毒を行なう。ロ）収穫後の残茎葉を清掃する。ハ）肥培管理に注意し、健全な生育をはかる。ニ）発病を認めれば速やかに被害株を焼却するか、銅剤、銅水銀剤、有機硫黄剤などを散布する。

1 煤紋病 (*Helminthosporium turcicum* Pass)

成葉に発生し始め帯青色の小病斑を生ずるが次第に拡大し大きな帯灰色、紡錘形となりそのまわりは褐色で中央部はやや暗色に変じ胞子を密生する。病斑の大きいものは拡大し全葉におよぶところもある。

伝染経路は分生胞子または菌糸の型で被害葉の上で越冬し翌年7月頃風雨によって飛散することに始まる。以後病斑部に生じた分生胞子で蔓延するので次年度の発生源とならぬよう被害葉を集めて焼却または堆肥として十分に腐熟させる必要がある。

防除法：一イ）晩播、密植をさける。ロ）第1次罹病葉は早期に発見し焼却する。ハ）堆肥、肥料は十分に施与し、特に窒素、加里質肥料が不足とならぬようにする。ニ）発病圃は連作をしない。ホ）薬剤は「マンネブダイセン」500倍液を7月中旬より2~3回散布する。



褐斑病



黒条萎縮病

3 その他の病害

本州方面では、煤紋病の他に胡麻葉枯病、黒条萎縮病等の発生が認められ、特に「ヒメトビウカ」の媒介による黒条萎縮病が次第に問題となりつつある。